

令和 6 年度 第 2 回銚子市介護保険事業等運営協議会 回答書まとめ

① 第 8 期介護保険事業計画の実行管理と現状分析について（資料 1）

<意見等>

公募について

- ・小規模・GH の公募に対し、参入がなかった要因は何があるか。

サービスについて

- ・市外の施設利用が増えることは銚子市の資産活用上好ましくない。市内から流出原因は何があるか。
- ・在宅サービスの選択肢は広まってきているが、人材不足などによりまだ必要な量が満たせていないのでは。

ケアプラン点検

- ・効果的に実施するために、「ケアプラン点検が必要な対象者選定」と「効率のよい点検作業の展開」といった 2 つの具体的計画が必要と思われる。9 期目標は 10 件だが、先進事例などを参考にさらに推進してほしい。

その他

- ・低所得者の標準率の引下げについて、引き続き見直しを検討していただきたい。
- ・対計画費の誤差も小さく、よく計画されており、適切に実行管理されている。
- ・現状分析については、抽象的な評価で終わるのでなく、増減に対する分析をもう少しすべき。（特に給付費に関する実績値・予測値・必要量に関して）

<事務局から>

公募について

事業所の公募における事業者の参入がなかった明確な理由はわかりませんが、介護人材の慢性的な不足により人材確保の面で懸念が大きいことや土地の取得が困難、コロナ禍による需要の落ち込みから採算が取れるかなど資金面での問題など様々な理由が推測されます。

サービスについて

市外の施設利用者は、市内に子や家族がいないなどの理由で、子の住んでいる近くの施設に入所している方が一定数いると考えます。

ケアプラン点検について

令和 6 年度から「同居家族等がいる家事援助」「同一品目の福祉用具貸与」等のケアプランを市に提出する形としたため、11 月 11 日時点で 12 件のケアプラン点検を実施しました。ケアプラン点検は、ケースごとに基幹型包括の介護支援専門員と資格給付班の事務職員の 2 名体制でアセスメント票やケアプラン等の事前確認と介護支援専門員と面談形式での助言・指導を行っています。点検件数は増えており、今後は先進事例などを参考にしながら、点検によって把握できた課題を広く介護支援専門員に周知し、それぞれ振り返りを行うことで、市全体の介護支援専門員の資質向上と自立支援に資するケアプランとなる様に働きかけていきたいと考えています。

② 第9計画に位置付けた「介護人材の確保」「業務効率化」について、資格取得の費用助成に加え、介護に関する入門的研修の開催、ICTの活用による介護現場の業務効率化が進められていますが、人材確保が困難な状況が続いていると考えます。人材確保策全般について意見をお聞かせください。

<意見等>

人材確保について

- ・優先順位などアセスメントして、具体的な人材確保の計画立案が必要。
- ・今後在宅医療が増えてくると思うので、看護師など関連する人材の確保が今以上必要と予想される。医師会や旧看護学校事務局との連携が重要。銚子市独自の資金援助制度などを設立してはどうか。
- ・ホームヘルパーとケアマネジャーの人材が足りない。事業者任せではない制度的な処遇改善が必要であり、地方自治体も声を上げるべきと考える。
- ・積極的な市民向け講習会、説明会の開催や、高校生向けパンフレットの配布を行うことにより、介護関係の就職または進学に寄与できるのではないかと。
- ・教育委員会と連携を強めて福祉教育を充実させて、小学生から福祉への関心を持ってもらう。また将来を考え始める中高生に対し、介護に関する講話や体験などを授業の一環として実施する。
- ・実習生や学生ボランティアを積極的に受け入れて、就職に繋げるように努めている。
- ・介護職が働く環境の改善として、①ボランティアなどの制度（ポイント制）を市で取り入れ人手を補う。②市独自の賃金助成制度で待遇を改善するのはどうか。
- ・あらゆる団体の構成員が高齢化しているが、次世代が育っていない。市として一般市民の啓蒙活動を行って欲しい。たとえば生涯大学や市内の事業会社の定年間際の職員向けにPR活動を行うことにより、定年後の生きがいづくりと社会参加への支援につながるのではないかと。
- ・ハローワークや求人サイトからの応募は減少傾向。職員から友人や知人を紹介してもらって「リファラル採用」が効果的と思うので、そのために現職員に対して魅力ある職場となることが重要。
- ・資格取得の費用助成制度などをもっとPRしたほうが良いと思う。
- ・国で示されている入門研修については、退職後の選択肢となるので、銚子市の企業、商工会などと協議して計画するとよいと考える。
- ・日本人も外国人も受講できるような研修を市が開催し、他の教育機関に委託してはどうか。その際の受講料は現行の費用助成の範囲内で調整すべきと考える。
- ・市内施設の教育センターにおいて入門的研修の協力をしているが、基礎講座のみの実施なので、残り18時間のカリキュラムをどのように考えているのか。

業務の効率化について

- ・介護ロボットやタブレットなどを活用したアプリケーション、その他介護機器の展示会を開催してはどうか。その際には導入経費の一部助成制度なども検討してはどうか。
- ・今年度「千葉県介護業務効率アップセンター」が開設したので、市としてもセンターを薦めるか、県と協力体制が取れるのであれば、なおよいと思う。

<事務局から>

人材確保について

現在、介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修を修了後、6か月間の市内介護事業所勤務をした方を対象に、受講費用の補助を実施しています。現在の制度は、本人負担が発生することや、他にもっと有利な制度もあることなどから、申請者が少ない状況です。現在の助成額や実施方法を見直し、市内事業所への就業者の確保につながる制度を検討します。

また、介護の仕事への興味、関心の機会として、引き続き、高校生以上を対象とした家族介護教室や、小中高生や一般の方を対象に認知症サポーター養成講座を実施していきます。

業務の効率化について

介護機器等の展示会に関しては、毎年秋に東京で「国際福祉機器展&フォーラム」が開催されており、最近ではWeb展も開催されているので、インターネット上で最新情報を得ることができるようになりました。展示の案内は市からも市内事業所へ周知を行っています。

また、介護ロボットやICT機器の導入についても、県の補助事業の情報提供を行っています。

その他

<自由記載>

- ・市独自に介護保険事業に対しての市民への認知度や事業参入を考えられる資料や講演など低額で行えるものを取り入れることも一考であると思う。
- ・近隣市町と比較すると、銚子市は、在宅利用者が多いとの事。これからも住み慣れた地域で自分らしい暮らしが最後まで出来る様、地域住民を見守り、少しでもお役にたてる様、これからもお手伝いしていきたいと思う。
- ・財政調整基金の残高が年々増えている。将来的な介護給付費の増加や保険料の負担軽減のためにも必要ではあるが、あまり増えすぎるのはどうかと思う。ニーズを把握したうえで新たな介護予防事業や市町村特別給付事業なども検討してはどうか。
- ・第8期はコロナ禍による介護サービスの利用控えのために、基金取崩しをせず、積み立てができたことは想定外の事でした。この反動が第9期にあるのではないかと懸念している。私の体感ですが、最近配偶者を亡くし独居になった人、配偶者が要介護になった人が増えている。
- ・施設介護希望者が増えそうですが、人口減少のため事業参入者や介護人材がなく、他市の施設利用者が増えれば一層の人口減少になり、残念な気がします。
- ・事業の継続は人材次第と考える。
- ・全国の特養の7割が赤字である現状を市としてどのように考えているのか。

<事務局から>

- ・介護サービス事業所の運営において、大きな課題として物価高騰、介護人材の不足への対応、医療・介護の連携の推進などがあると考えます。

市としては、介護現場の負担軽減、生産性向上に寄与し介護事業の魅力アップにつながる各種支援制度の情報提供などに努めていきます。

令和6年度の介護報酬改定では、介護職員の処遇改善を中心とした介護報酬の引き上げや生産性向上に向

けた取組みに対する評価が盛り込まれています。介護サービスが持続的に提供されるために、介護報酬の見直しが適切に行われ、人材の確保や事業所の安定的な経営が図れることが重要であり、市としても今回の改定の趣旨をしっかりと理解していきます。